

時代加見廿五編

多林堂書肆梓

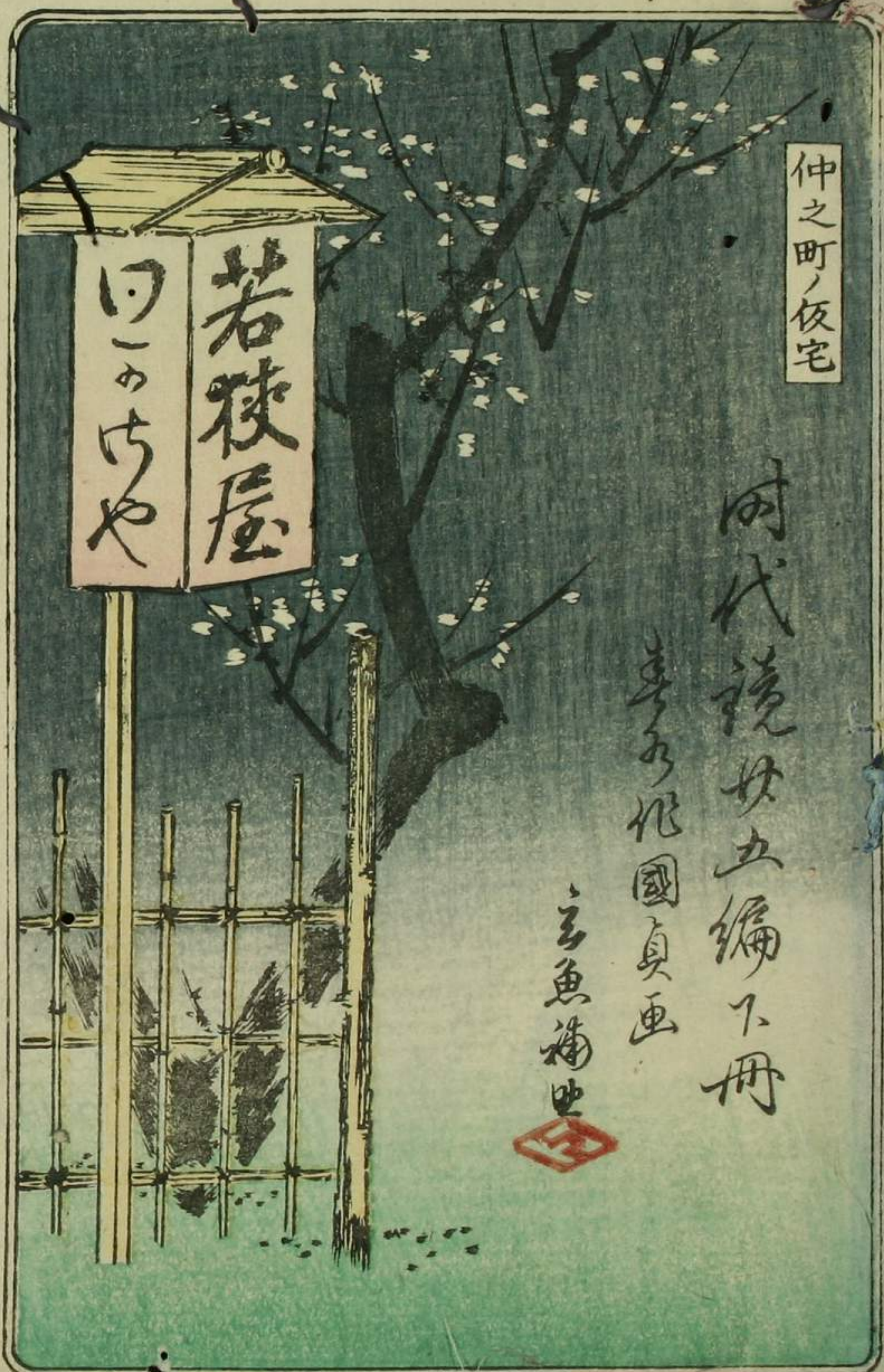
3031
4





時代鏡廿五編上之卷

仲之町ノ夜宅



時代鏡廿五編下冊

是之庵國貞画

三魚海堂



仕題曲五(國)出

善の作
國貞画

廿五編下



兼初雪
談時代鏡

廿五編上

成の善
新刊

善の作





大約稗史を綴つづん小豫腹せうぶ藁わら少すく恁ちん後ご之の斯すせん
 憶おぼひぬららら措たるもも儲筆たくし採とる小こ至いたり後とゆて
 先まかえ右みぎと左ひだり小こ做しよま多多たる爾なんバ前廿四編じゅうしよひんの幕まくらと
 切きらんとまる前まへ小こ那な蜂はち澤さわの花はな作しよが小こ菡はんの跡あとと追お行ゆきをあて
 筆ふで成なりとりて閣かくとり今いま道みち平ひらが物もの語ごと編あも果はさば小こ菡はんが
 人ひと小こ暨あさんとりし小こ赴ゆ向むかひが恁ちんまるときふハ餘談だん小このみ只
 徒ただ小こ編あ數かず高たかとり大貫目おほいぬめとり多おほ賀がの話ハさるが忘わすれて
 ると案あんを轉くると七尾上助ななのおのすけの妻つま子この傳つたへるるを總もて撰ぐ拙作さく
 ると這物語このものがたりと夾綴くわさつりて又また那あの話わ小こ移うつるを夫等おつらの類るいと多おほ
 看官けんくわん前後ぜんごと讀返よみかへして宜よろしく熟覽じゆくわんと願ねがふを

壬戌孟春
 吉且新鐫

為な永なが春水はるみづ記し也

寺てら八やち十五ご



時代十五

二



遊根のが

時代十五





寺八十五



甲十五



五
 寺
 下
 下



甲
 下
 十
 五





寺代十五



目付十五



時
代
廿
五

十

上の巻
の
う
ら
ま
の
う
ら
ま
の
う
ら
ま

春水作國貞画



甲
午
廿
五

う
ら
ま
の
う
ら
ま
の
う
ら
ま
の
う
ら
ま

う
ら
ま
の
う
ら
ま
の
う
ら
ま
の
う
ら
ま

下



Handwritten text in vertical columns, likely a play script or commentary, located above the illustration.

Handwritten text in vertical columns, likely a play script or commentary, located below the illustration.



Handwritten text in vertical columns, likely a play script or commentary, located above the illustration.

Handwritten text in vertical columns, likely a play script or commentary, located between the two illustrations.

Handwritten text in vertical columns, likely a play script or commentary, located below the illustration.

Vertical text on the left margin of the left page.

Vertical text on the left margin of the left page.







寺代十五

あまのせ
はらうまは
かたははれ
とこころえ
ついで
あまのせ
はらうまは
かたははれ
とこころえ
ついで
あまのせ
はらうまは
かたははれ
とこころえ
ついで

田代
あまのせ
はらうまは
かたははれ
とこころえ
ついで
あまのせ
はらうまは
かたははれ
とこころえ
ついで

あまのせ
はらうまは
かたははれ
とこころえ
ついで
あまのせ
はらうまは
かたははれ
とこころえ
ついで



甲代十五

あまのせ
はらうまは
かたははれ
とこころえ
ついで
あまのせ
はらうまは
かたははれ
とこころえ
ついで

あまのせ
はらうまは
かたははれ
とこころえ
ついで
あまのせ
はらうまは
かたははれ
とこころえ
ついで

あまのせ
はらうまは
かたははれ
とこころえ
ついで
あまのせ
はらうまは
かたははれ
とこころえ
ついで

あまのせ
はらうまは
かたははれ
とこころえ
ついで
あまのせ
はらうまは
かたははれ
とこころえ
ついで



一
 ○ 只後小春歌巻の只後より且は後を更替つ先着のいしほし
 ○ 四十海峯の飛は梅そも春より無性まのん倍載化のれい
 ○ 生屋の汁は初めははせ無性海から文机の信解りていささ
 ○ 油と俣の思ひをよもあや眠りてはさるる張る人女もつ
 ○ ちね笑ふその智るなるぞいへるあ余の尚もいしほし
 ○ 昔思ふも又なるまゝ馬存人ひと女我我書一唐名い
 ○ ほきもいしほし翁のいけりも婦切のためは動徳の増
 ○ ともなれは後例の時代か自らの編輯をもの
 ○ 文久二のえ成のら新 水永春のあまらる

時代七

朝 鮮 牛肉丸
 大色金三味 中包金二味 小包百銅
 小の業教年東おの
 い知をい野名のも
 およとれは海海を
 ようく味の上味
 てん
 小倉屋
 漆崎氏製

為永春水作歌川國貞画





真葛の亡妻

寺
大
七
六



岳

河右衛門

甲
七
六



頓足羽太郎





寺七カハ



時代



寺代七六



甲十十六



此の巻を
 見れば
 一と云ふ
 事あり
 けり
 此の巻を
 見れば
 一と云ふ
 事あり
 けり

春水作

此の巻を
 見れば
 一と云ふ
 事あり
 けり
 此の巻を
 見れば
 一と云ふ
 事あり
 けり



此の巻を
 見れば
 一と云ふ
 事あり
 けり

甲子年

此の巻を
 見れば
 一と云ふ
 事あり
 けり

國貞画

芝神明前
 若狭屋與市版

箕田
 浄書青洲

此の巻を
 見れば
 一と云ふ
 事あり
 けり











北堂美談

河代之見

二十編

若水作國貞畫

若林堂



時代

加賀實

二十編

若水作國貞畫

欲川國貞畫

若林堂

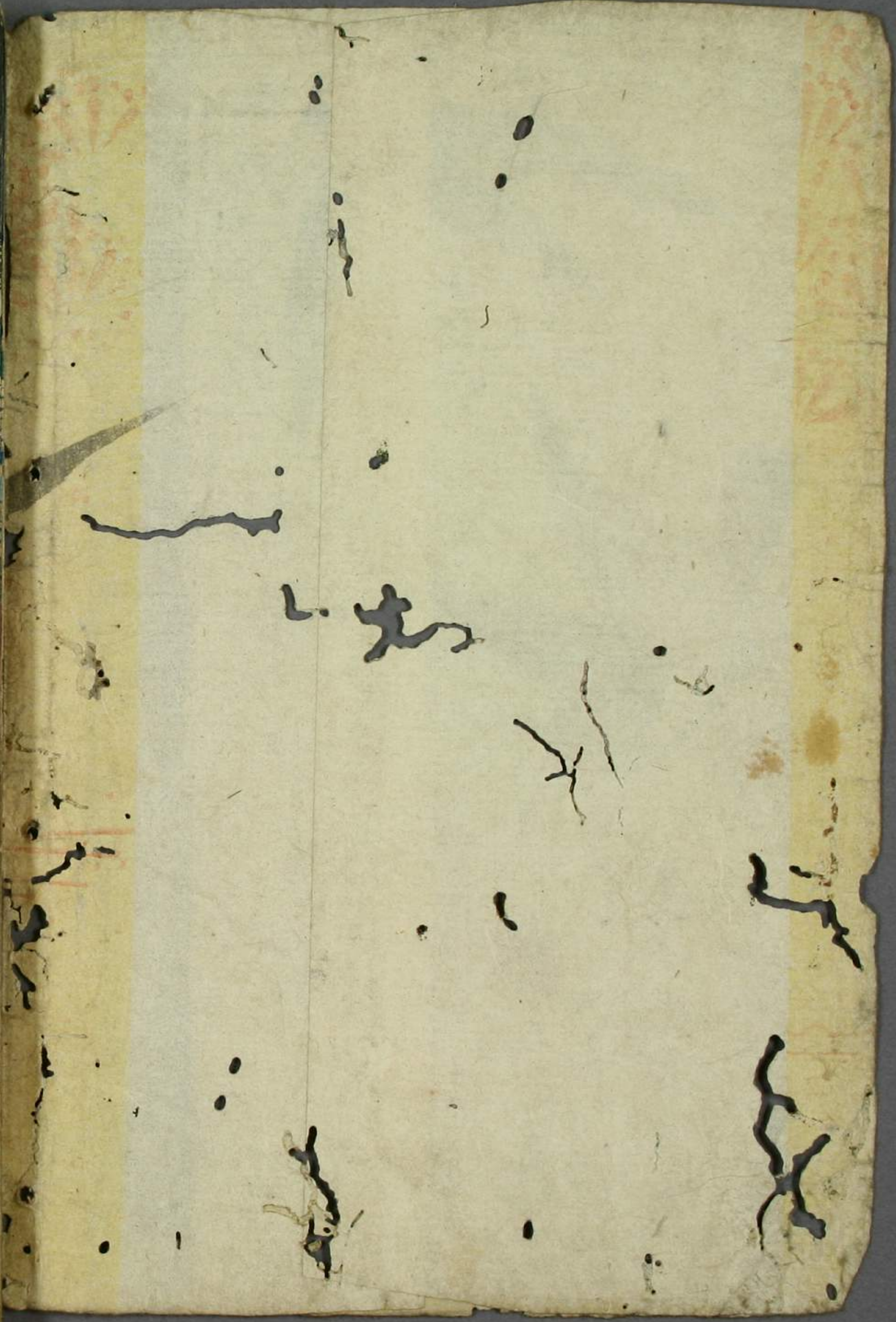
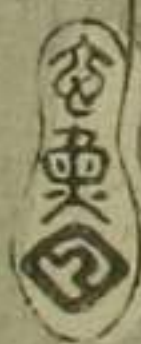


時代鏡

廿編上之卷

春水作
國貞畫

若林堂梓





二十編下

七國貞連

庚申新振
石村堂



北雪
美談
時代加賀見

七國貞連

二十編上



水香のみ候時代
 鏡廿一篇下集
 万永其の作
 都川國貞畫
 右の如き書畫也



孝成物語を編むと云ふに先徳傳を以て申すは又箇様
 の如くは彼等と稱するは測り難くも供養を擧げざるは
 個をせざるを其の如くは執向は枝葉の増えりしより大
 小の如くは二候三候とあるの如くは余を以て其の如く
 へ巻きたり他者の後業を犯す遠く者宿に樂をせんは後
 幕明を乞はば姑く強ひて板元の用を以て其の如くは
 作らばは愛りも既に大和の股の思ひしより其の如くは
 透莫廿一篇の如くは正身丹四節が信義の如くは

庚申新春吉日一為永春水記焉

寺
廿二



十六
夜
姫





猿
曳
次
与
平



十六
夜
の
侍
女
松
枝



船
越
兵
衛



Handwritten text in the left margin, including the characters '右' (right) and '左' (left).



Handwritten text in the left margin of the second page.

Handwritten text in the right margin of the second page.

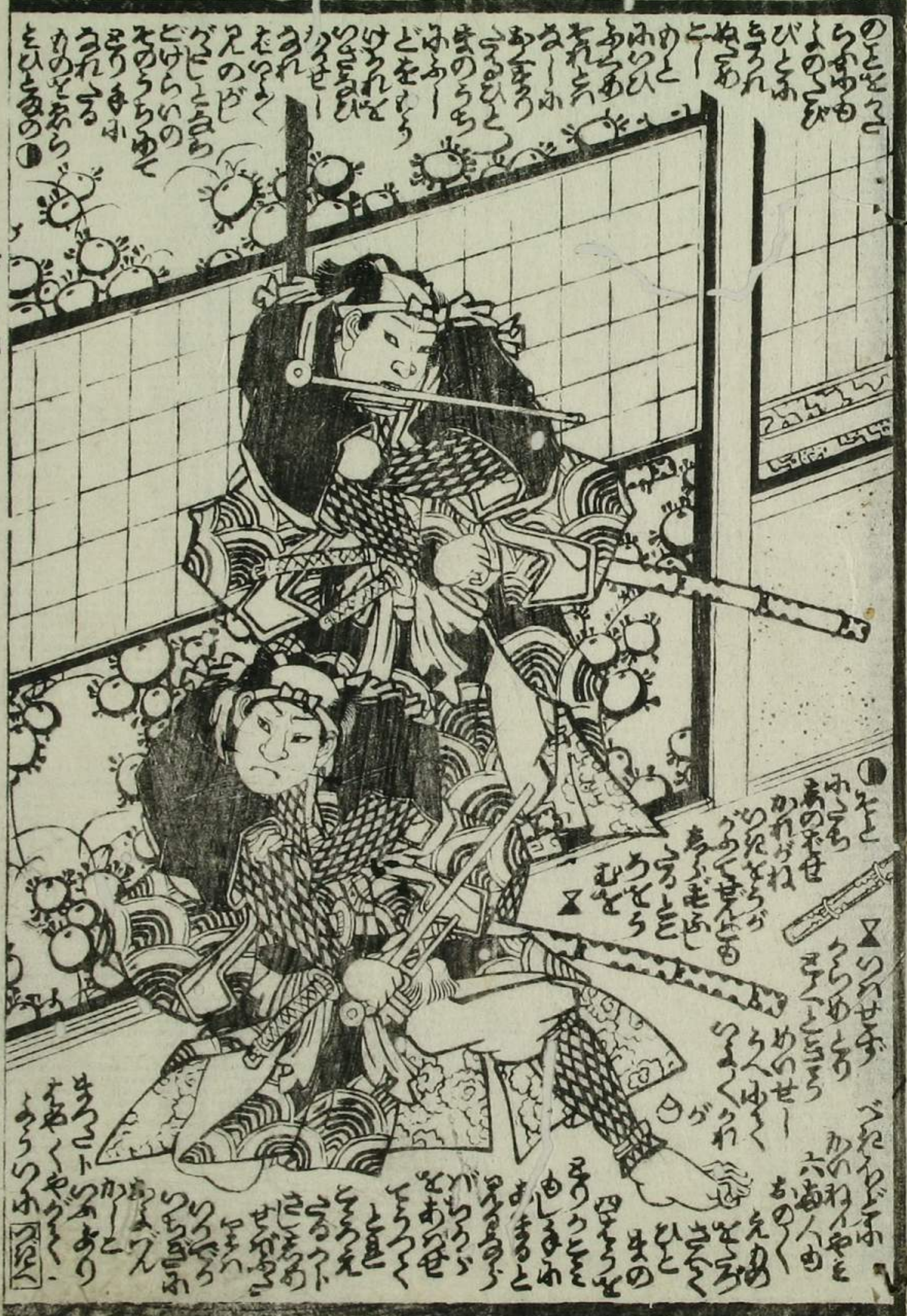


寺
七
二



味
十
二



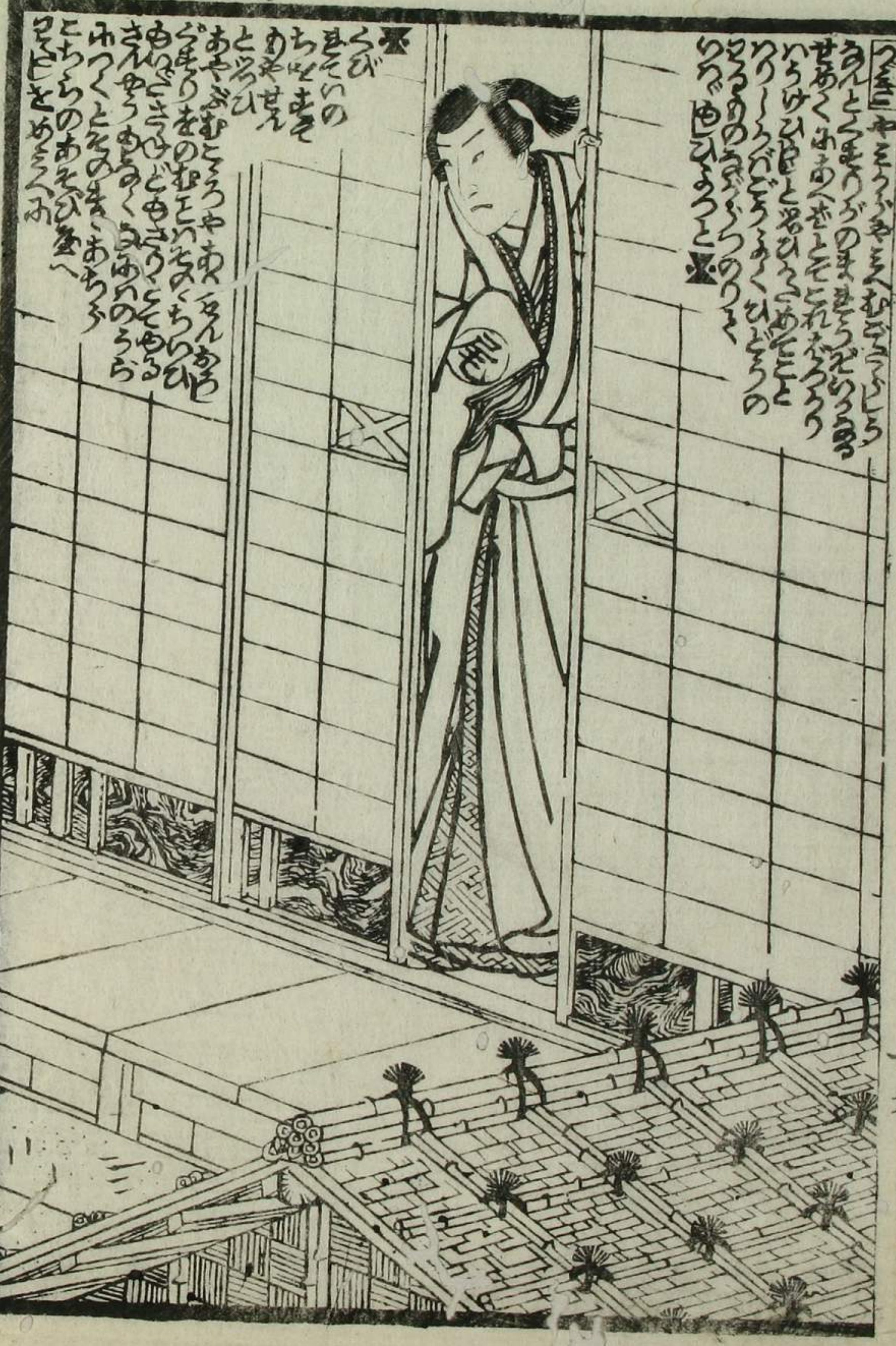


寺代二十



甲子二十

あつと...
 いちや...
 ...



あつと...
 ...



つれあひ...
 ...

寺代二



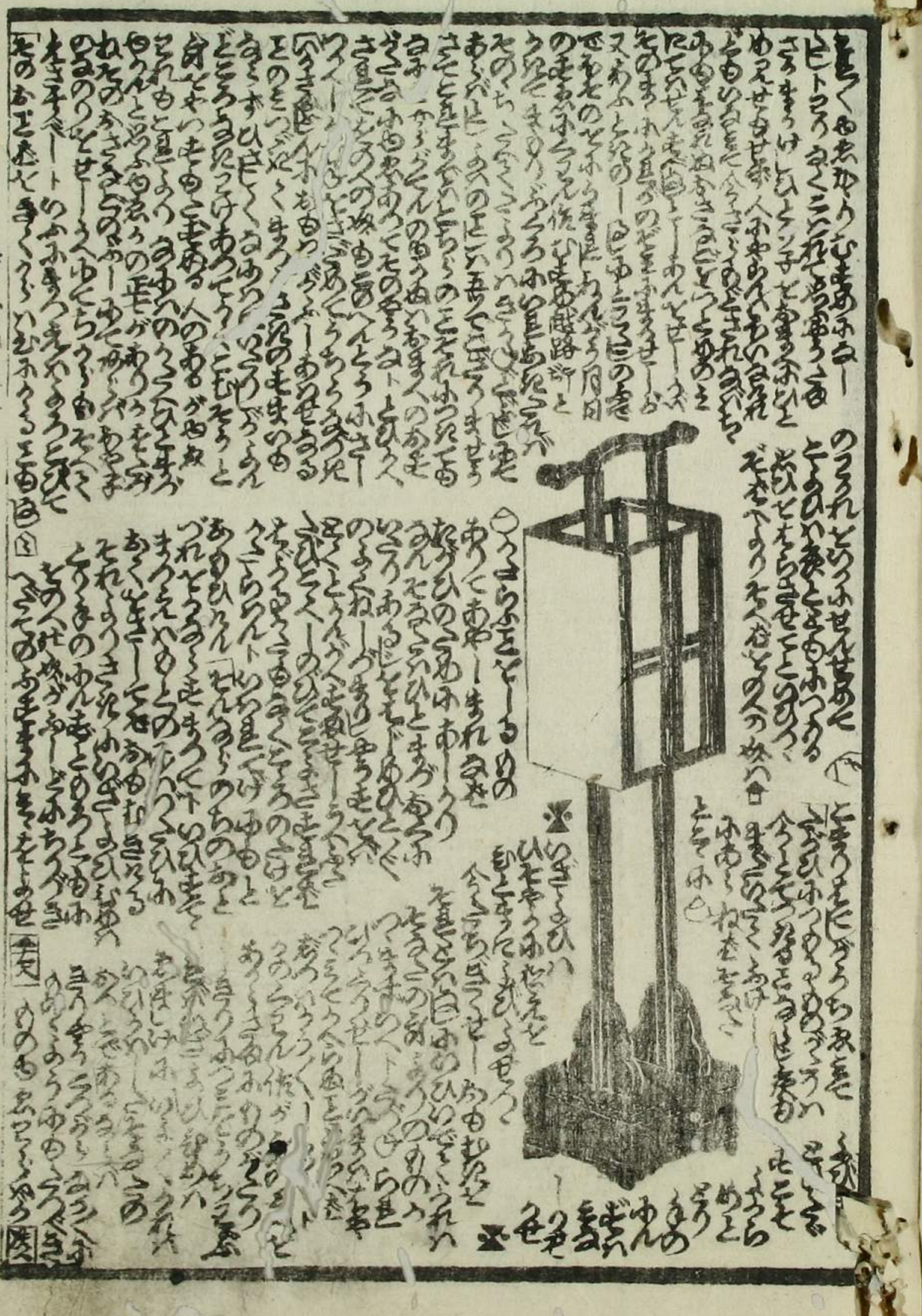


つらねて
 らあひの
 てはらひ
 ちんちん
 とびりま
 すしん
 まつと
 まつと
 うの手と
 ついで
 ついで
 ついで
 ついで
 ついで

あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた

あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた

あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた



あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた

あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた

あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた
 あつた

春水作



國貞画

備書 交々大田

春水の作は、
 國貞の画は、
 此の巻の
 初春の
 出と合巻も
 秋の
 賣出の
 魁を
 急ぐ
 残り
 づの
 書賣の
 催促の
 世より
 からぬ
 ちなる
 小就中
 たる
 時代
 加賀見
 の初編
 より
 毎歳
 五、六
 帙の
 編め
 らる
 採り
 日の
 稀なき
 ば總
 の著
 述皆
 かれ
 の速
 莫今
 終り
 され
 御免
 せ

七夕の短冊も五日の甲夜うう竹小結び月見の團子も夜明ぬ
 うちにと物成速き残昔とを初春も出と合巻も
 秋はうちより賣出の魁を急ぐ残りづの書賣の催促の世よりからぬちなる小就中たる時代加賀見の初編より毎歳五、六帙の編められ採り日の稀なきば總の著述皆かれの速莫今終りされ御免せ

庚も早春吉且

為永春水記







廬
花
作
都

あふさふこの
新増ま〜るる
まねる乃
志のあと
まねると
法ありと
つらと〜る

正
香
丹
四
郎



花
作
女
房
阿
十
字



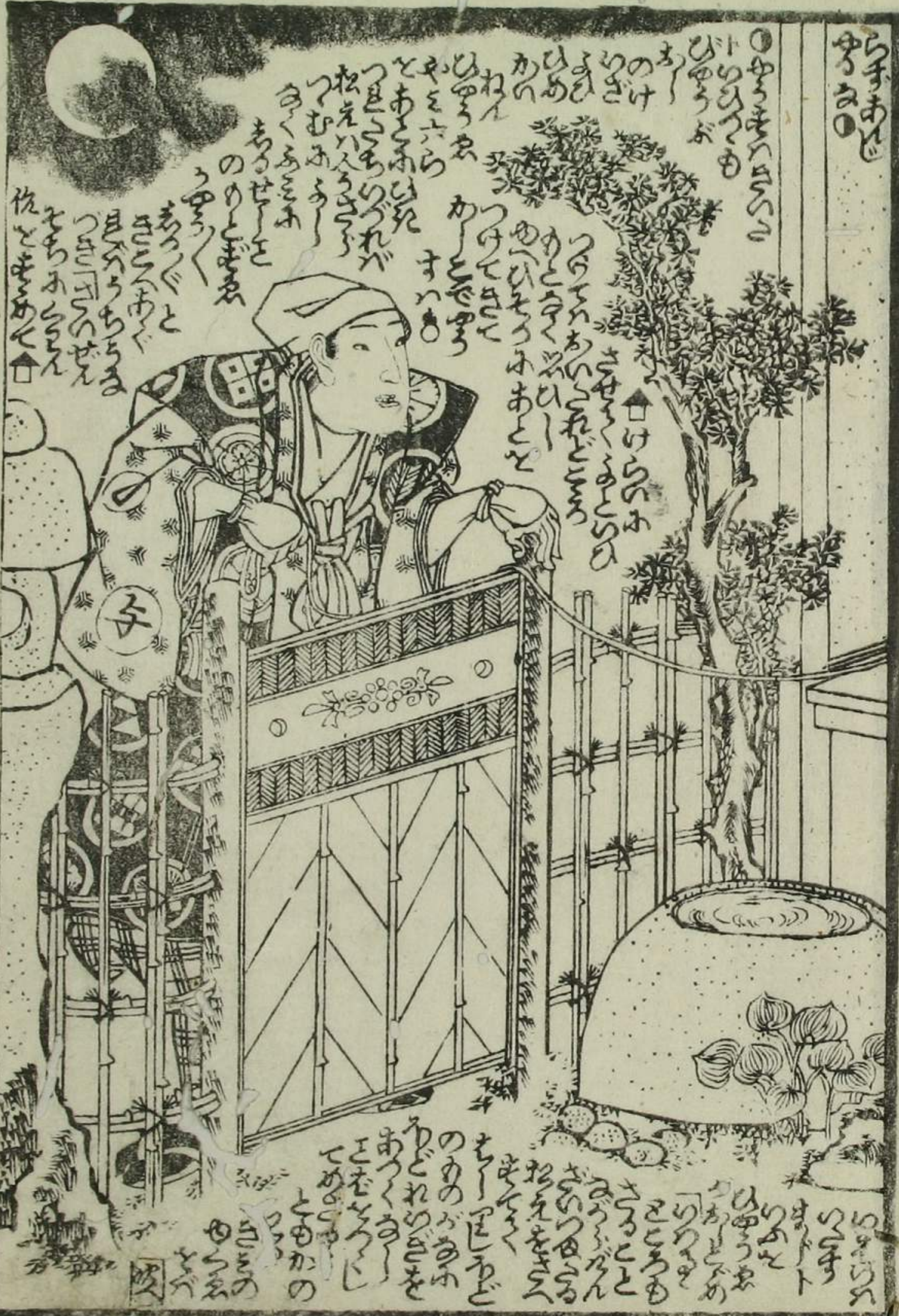
詩七廿一

右



田ノ七

左



寺七十一

五



あゝ長尾
家のつと
子のめく
あせ



時代廿一

あつちのせんせの
さあまのまじり

あつちのせんせの
さあまのまじり
あつちのせんせの
さあまのまじり

あつちのせんせの
さあまのまじり
あつちのせんせの
さあまのまじり
あつちのせんせの
さあまのまじり



時代廿一

あつちのせんせの
さあまのまじり
あつちのせんせの
さあまのまじり

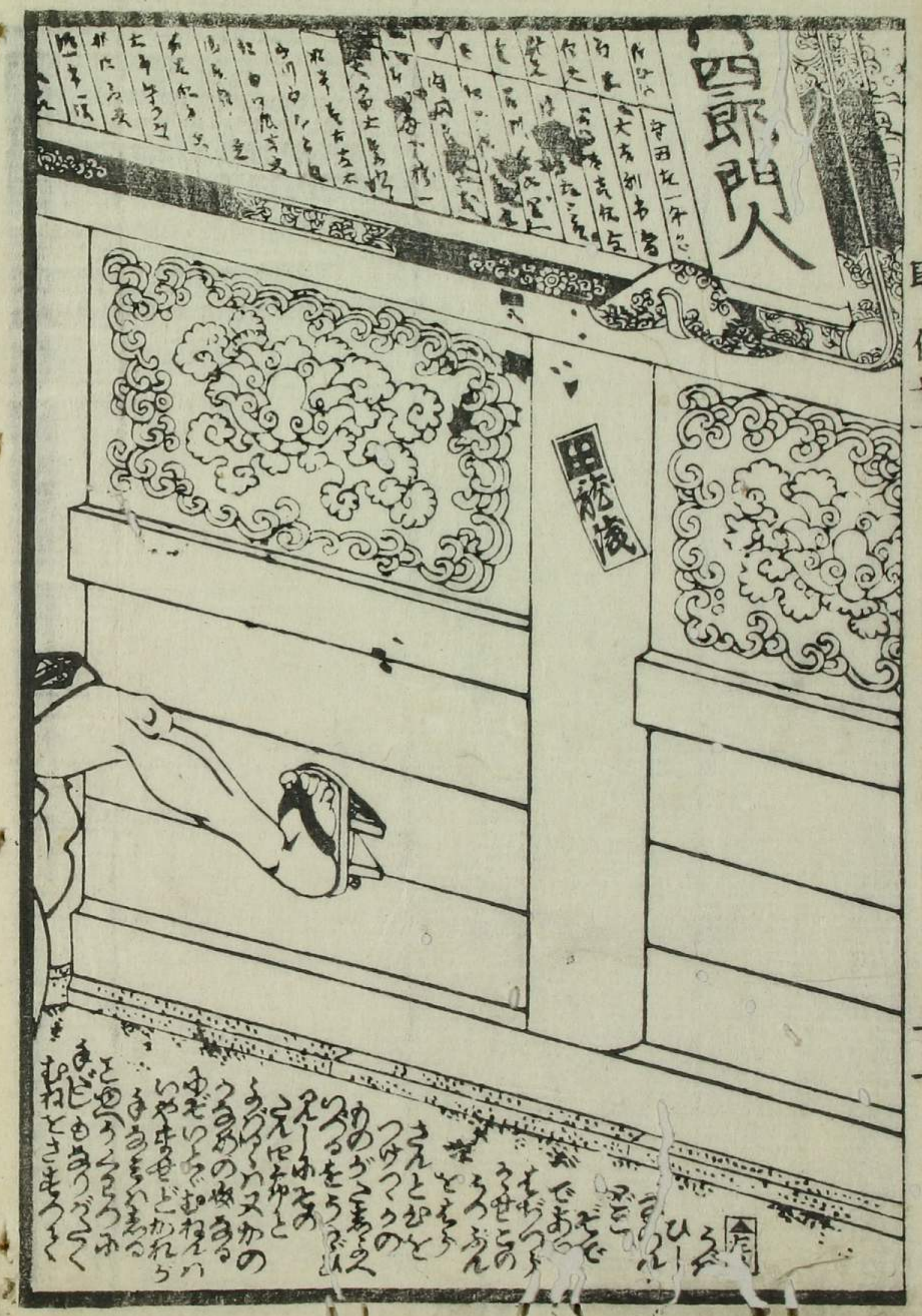
あつちのせんせの
さあまのまじり
あつちのせんせの
さあまのまじり
あつちのせんせの
さあまのまじり



寺七士



印





持大社

十一



目録

十四

四



寺七十一



時令十一

十一





あつていふらんりやう
まのていれまはんと
あつていふらんりやう
まのていれまはんと

時
世

寺
世



あつていふらんりやう
まのていれまはんと
あつていふらんりやう
まのていれまはんと

寺
世

寺
世

ついでとてこれの
ひらけんやうの
らぬとてこれの
とてこれの
とてこれの
とてこれの
とてこれの
とてこれの
とてこれの
とてこれの
とてこれの

春水作 國貞画



とてこれの
とてこれの
とてこれの
とてこれの
とてこれの
とてこれの
とてこれの
とてこれの
とてこれの
とてこれの

備書
父來
とてこれの
とてこれの
とてこれの
とてこれの
とてこれの
とてこれの
とてこれの
とてこれの
とてこれの

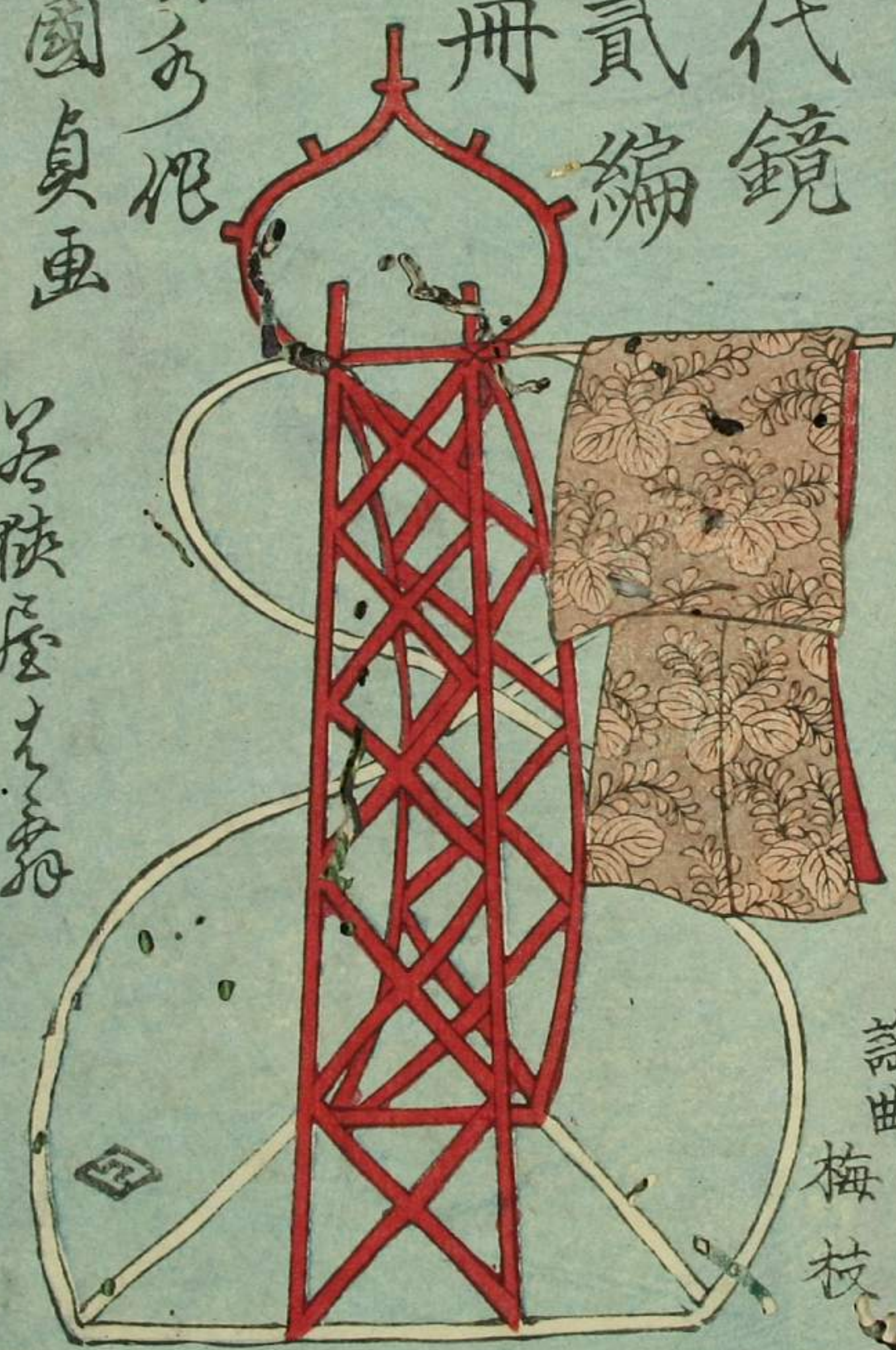
時代鏡

廿貳編

上冊

美画
國貞画

若狭屋



曲
梅枝

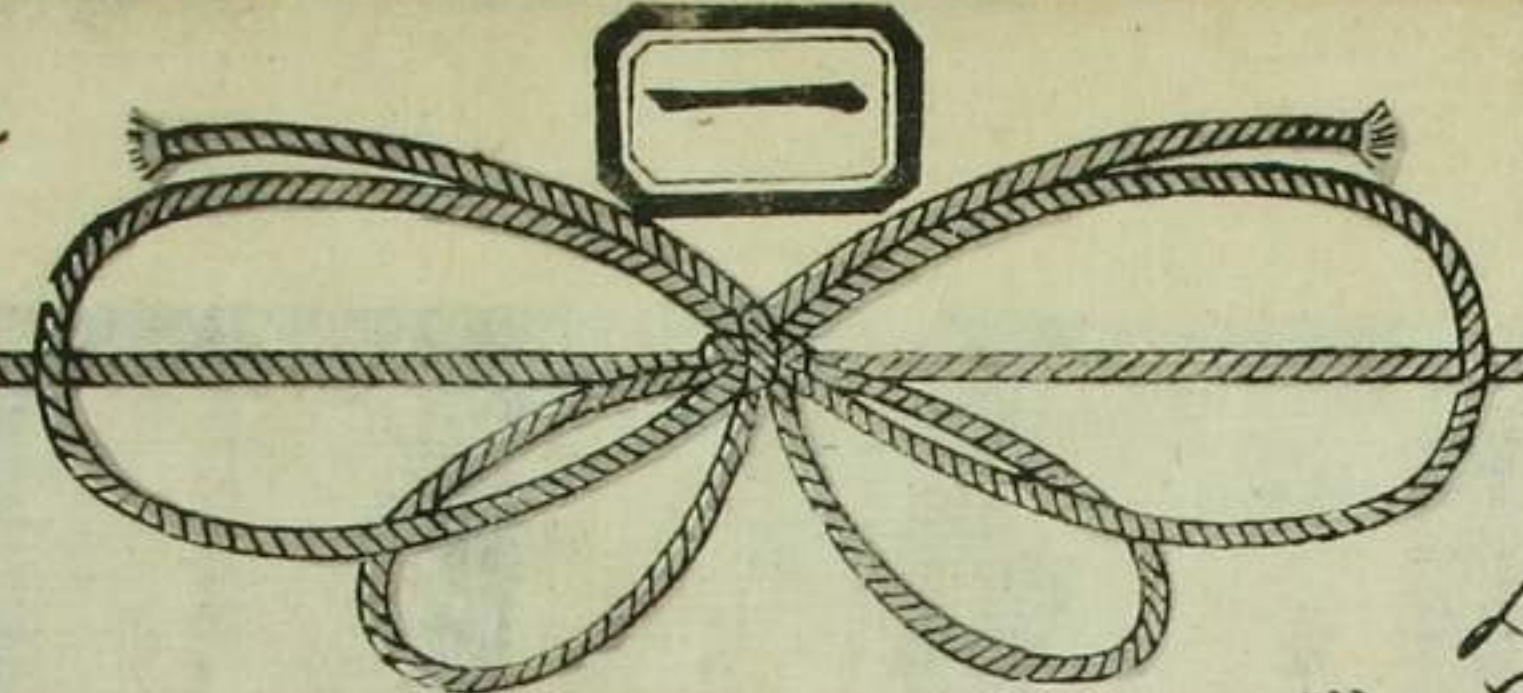


善中他國真画
多林堂文庫



北雪時代加見美談

廿二編上



孝子の言ひをせんといふ候も既に事ある
 人々の孝子と言ひせんや偽盗賊の言ひをせんといふ
 戯れもわれ東西を渡り六指の偷兒と言ひせんといふ
 事もある是等の書もついでに所載する冊子の編りど
 化同をうらみの小説者尻年所傳の怪異号もさ
 せりて知れり近頃至れど僅に偽の事姑ある
 待事向ふるの如くも花押も昔は庫申
 所載試みに便例の時代加名名の嗣編に序に

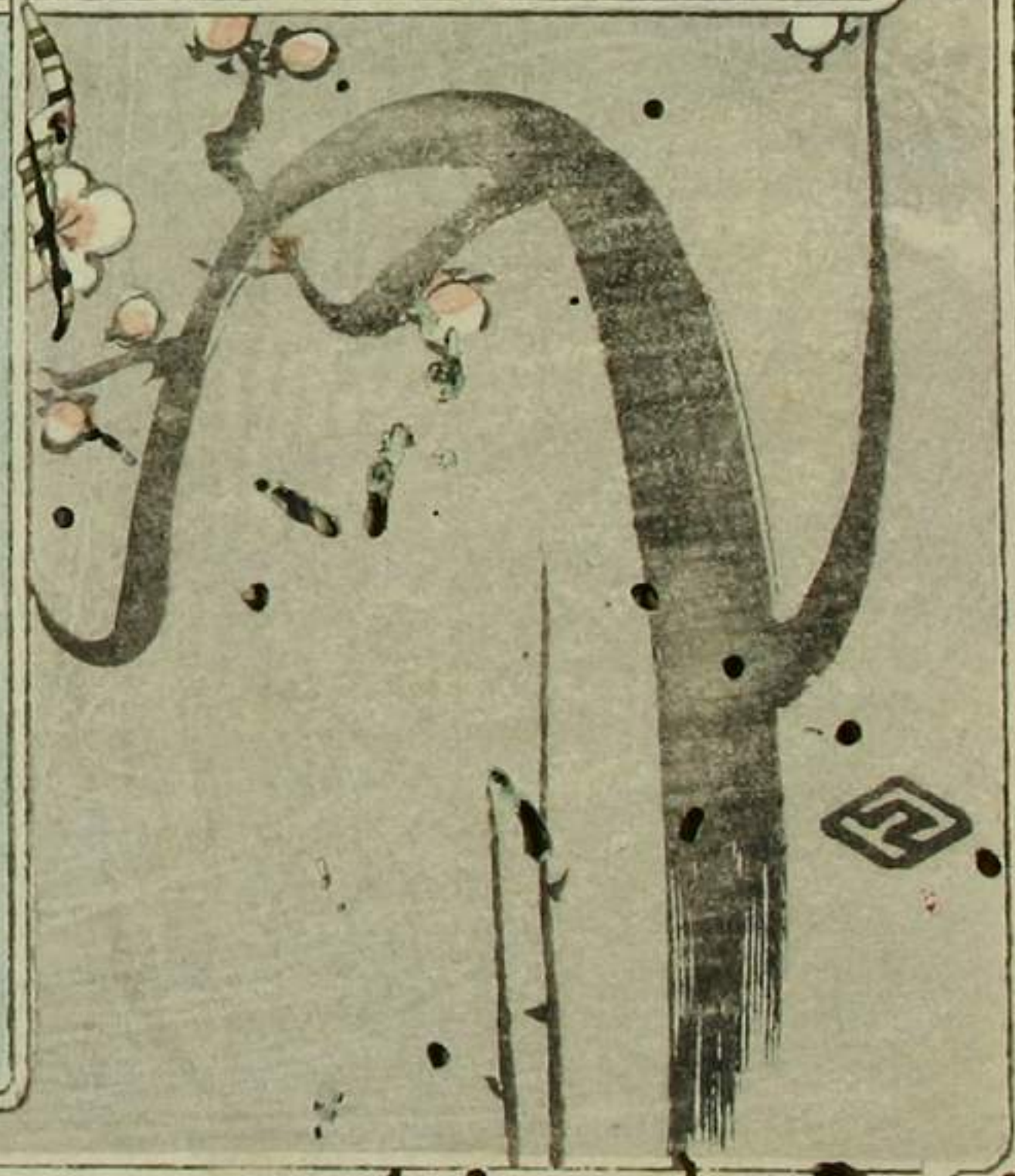
為永春水識

梅素玄魚書

寺代上二

孝子の言ひ
 二十一人の中
 たぬれうさ
 ううううう

萬延庫申新刻
 若狭屋梓





春藤

壁女
妾
刈
根





Vertical Japanese text in the upper right corner of the right page, likely a title or introductory text.

Vertical Japanese text columns surrounding the illustration of the woman playing the shamisen.



Vertical Japanese text in the upper left corner of the left page.

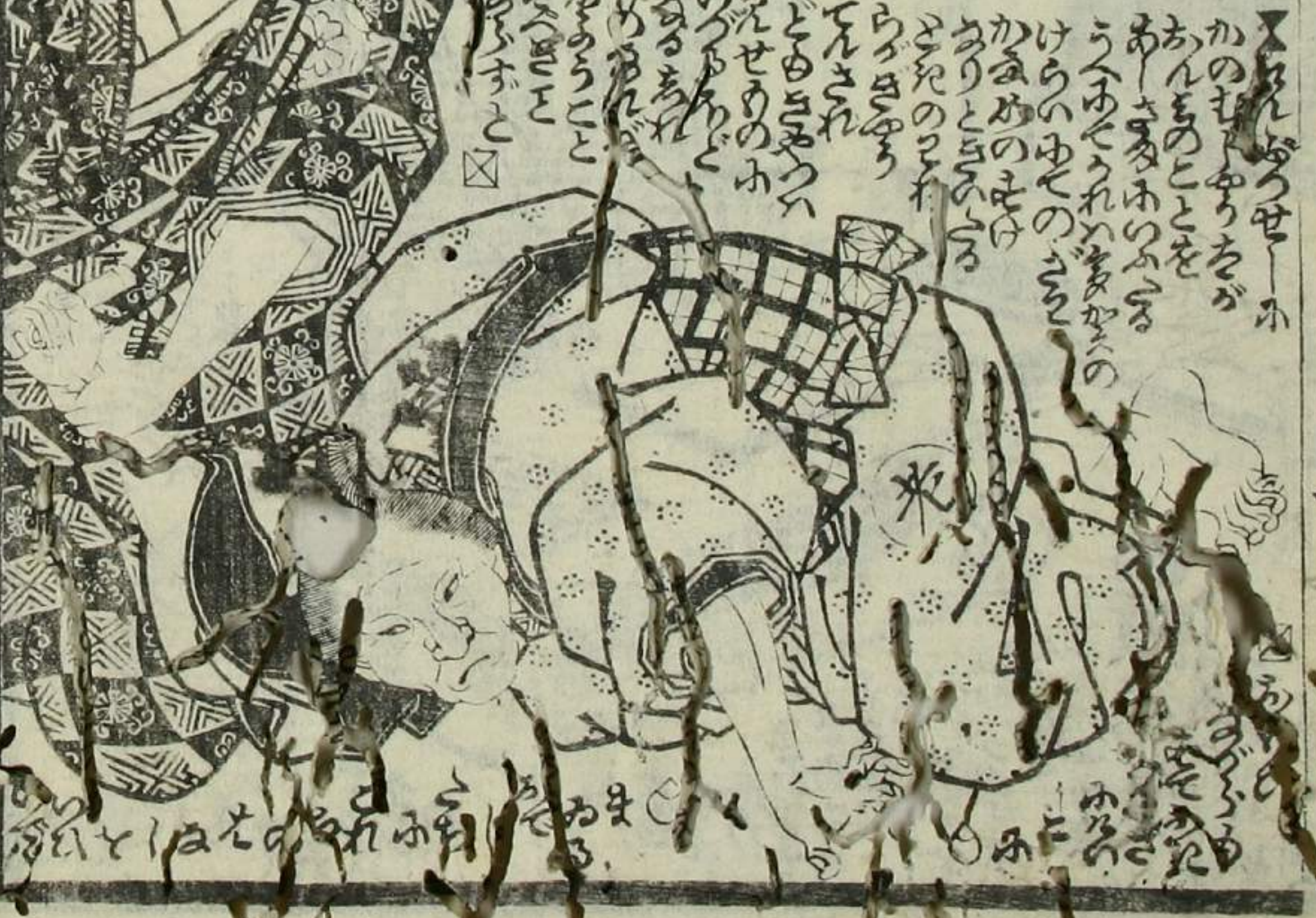
Vertical Japanese text columns surrounding the illustration of the two women.



甲子年十一月十二日

... せむし... のち...
 ... せむし... のち...
 ... せむし... のち...
 ... せむし... のち...
 ... せむし... のち...
 ... せむし... のち...
 ... せむし... のち...
 ... せむし... のち...
 ... せむし... のち...

... せむし... のち...
 ... せむし... のち...
 ... せむし... のち...
 ... せむし... のち...
 ... せむし... のち...
 ... せむし... のち...
 ... せむし... のち...
 ... せむし... のち...
 ... せむし... のち...



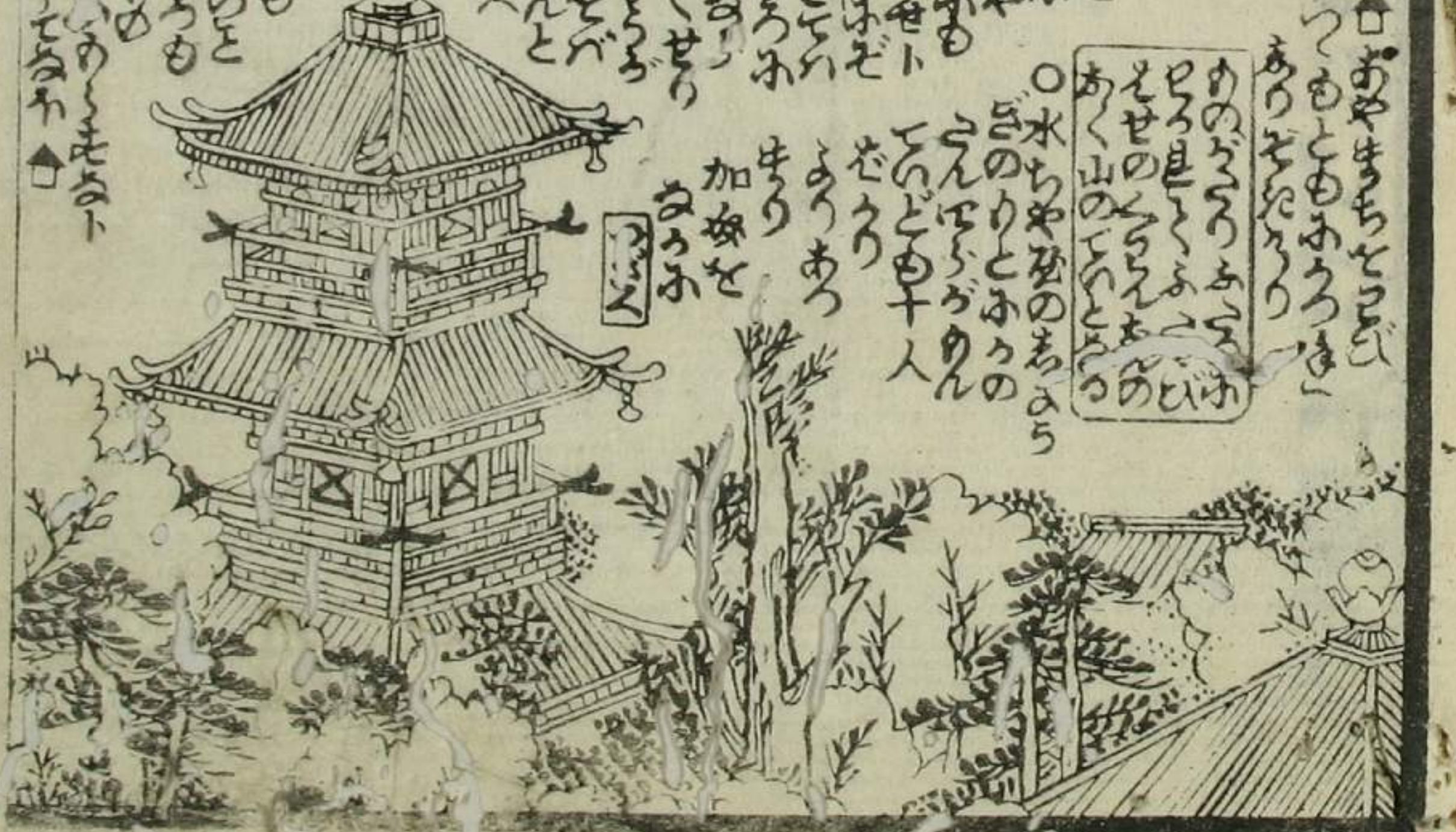
... せむし... のち...
 ... せむし... のち...
 ... せむし... のち...
 ... せむし... のち...
 ... せむし... のち...
 ... せむし... のち...
 ... せむし... のち...
 ... せむし... のち...
 ... せむし... のち...

... せむし... のち...
 ... せむし... のち...
 ... せむし... のち...
 ... せむし... のち...
 ... せむし... のち...
 ... せむし... のち...
 ... せむし... のち...
 ... せむし... のち...
 ... せむし... のち...



三の巻の... ねのあはれ... 三の巻の... ねのあはれ... 三の巻の... ねのあはれ...

三の巻の... ねのあはれ... 三の巻の... ねのあはれ... 三の巻の... ねのあはれ...



時代士二

甲 十二

ついでに... ねのあはれ... ついでに... ねのあはれ... ついでに... ねのあはれ...



ついでに... ねのあはれ... ついでに... ねのあはれ... ついでに... ねのあはれ...

十五





為永春水作一壽齋國貞画
芝林明子
つとのまを
なごん



北雪美談

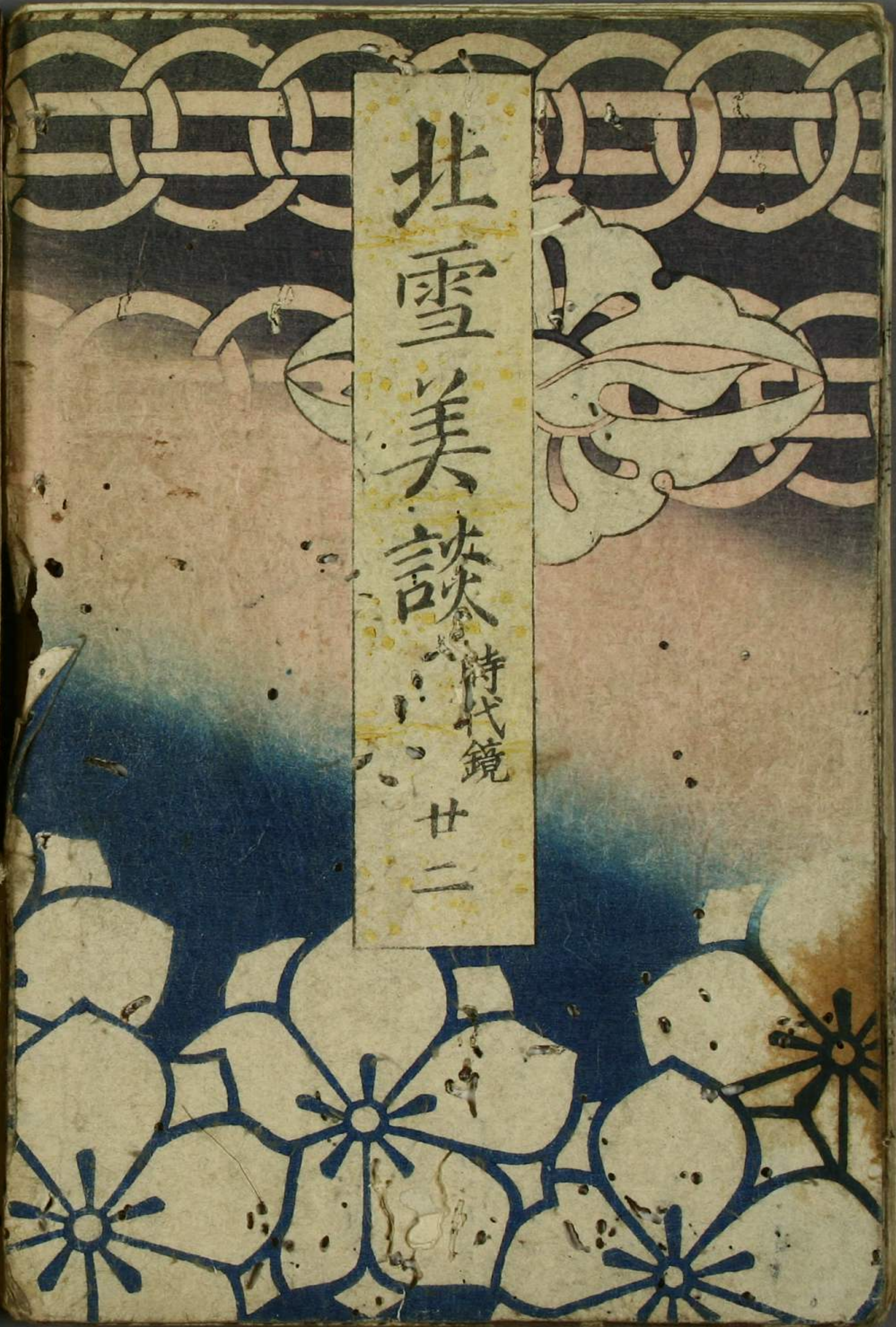
時代鏡

廿二

時代加三見
廿三編
為永春水作
歌川國貞画

有魚

若林堂梓



三藐院殿御筆

唐衣をきて
きた野乃
神ろとて
神子のうた
梅ろくのれ
慶長庚戌仲和廿五馬



教
一
編

上
下

侍
式
の
み





芳様屋の絵

一壽翁
廿三編下
國貞画



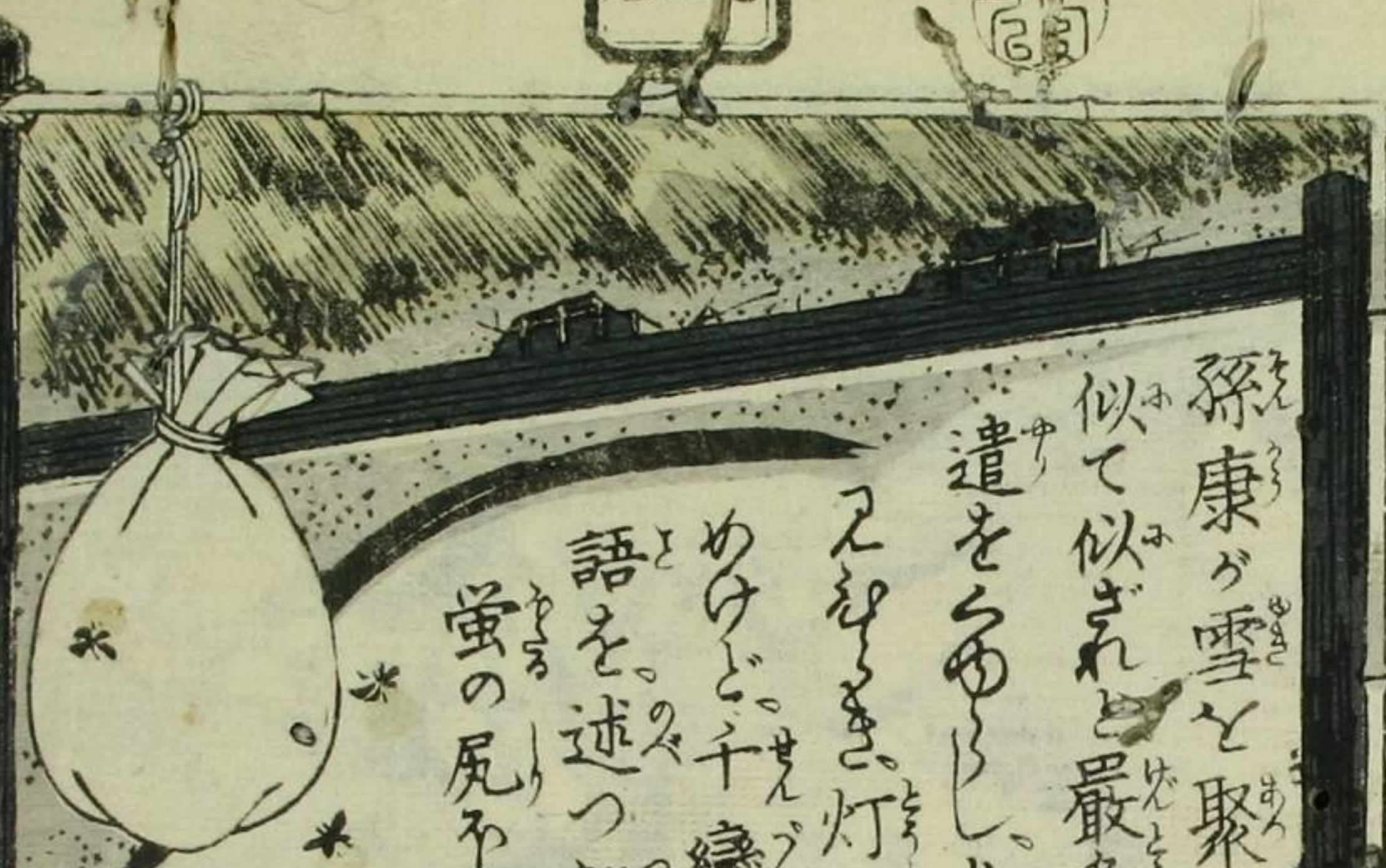
北雪
美談
時代加々見

外題
喜水化

為永

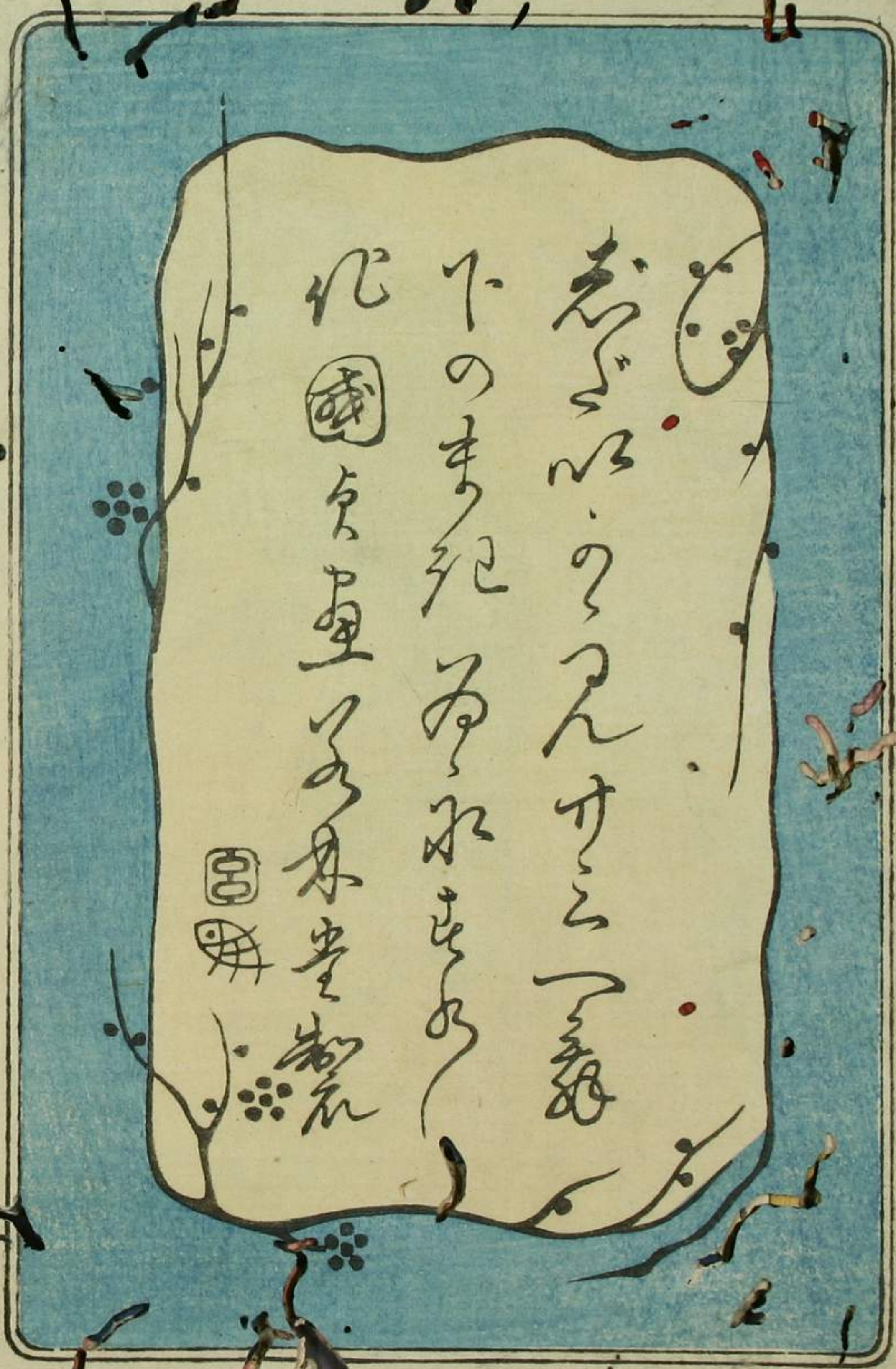
新美

廿三編上



絲康が雪と聚め車胤の囊小螢と盛す 夜学の窓あり
 似て似されど最冬の寒ゆも三伏の暑きほの團炭を懐く蚊
 遣をるゆじ世間の人乃寝あぐちるすて眼ハ油罌の如く
 又燈心も灯心もりも瘦腕ふといふて何様やと代作あり
 めげど千變万化の自在を得おぼかあり條ある野
 語を述の綴るる夜業の文儿憶ひも雪雅積らぬほど
 螢の尻やと光もあはれを復一帙ふ下漆の墨さへいさ
 乾ぬを梓ふ上しと笑に備ふ

万延二
 酉の春為永春水誌る



下のま紀をぬきま
 北國よりよき春を知らせ

国印



道平の渾家若芝

佐原 道平

新



間許 久根藏

寺代士



多加貝正方の
令妹 雪子 媛

野宮の
遊戯
之體
深遊
圖



寺代十三

五



田代十三

六



寺七十三



田一七三



あはれおのれ
 けしきをみれば
 けしきをみれば
 けしきをみれば
 けしきをみれば

あはれおのれ
 けしきをみれば
 けしきをみれば
 けしきをみれば
 けしきをみれば

あはれおのれ
 けしきをみれば
 けしきをみれば
 けしきをみれば
 けしきをみれば
 あはれおのれ
 けしきをみれば
 けしきをみれば
 けしきをみれば
 けしきをみれば



あはれおのれ
 けしきをみれば
 けしきをみれば
 けしきをみれば
 けしきをみれば

あはれおのれ
 けしきをみれば
 けしきをみれば
 けしきをみれば
 けしきをみれば

あはれおのれ
 けしきをみれば
 けしきをみれば
 けしきをみれば
 けしきをみれば
 あはれおのれ
 けしきをみれば
 けしきをみれば
 けしきをみれば
 けしきをみれば



のまわりのあまのこゝろ
まはりのあまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ

あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ



あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ

あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ

あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ



あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ

為永春水作

のりぬせにまづつて
 こたれとすりこむも
 むちちへのあきひひ
 こころのあつらふゆめ
 こころのあつらふゆめ
 こころのあつらふゆめ
 こころのあつらふゆめ



のりぬせにまづつて
 こたれとすりこむも
 むちちへのあきひひ
 こころのあつらふゆめ
 こころのあつらふゆめ
 こころのあつらふゆめ
 こころのあつらふゆめ

せらふあつらふゆめ
 んんあつらふゆめ
 せらふあつらふゆめ
 んんあつらふゆめ
 せらふあつらふゆめ
 んんあつらふゆめ
 せらふあつらふゆめ
 んんあつらふゆめ

國貞画

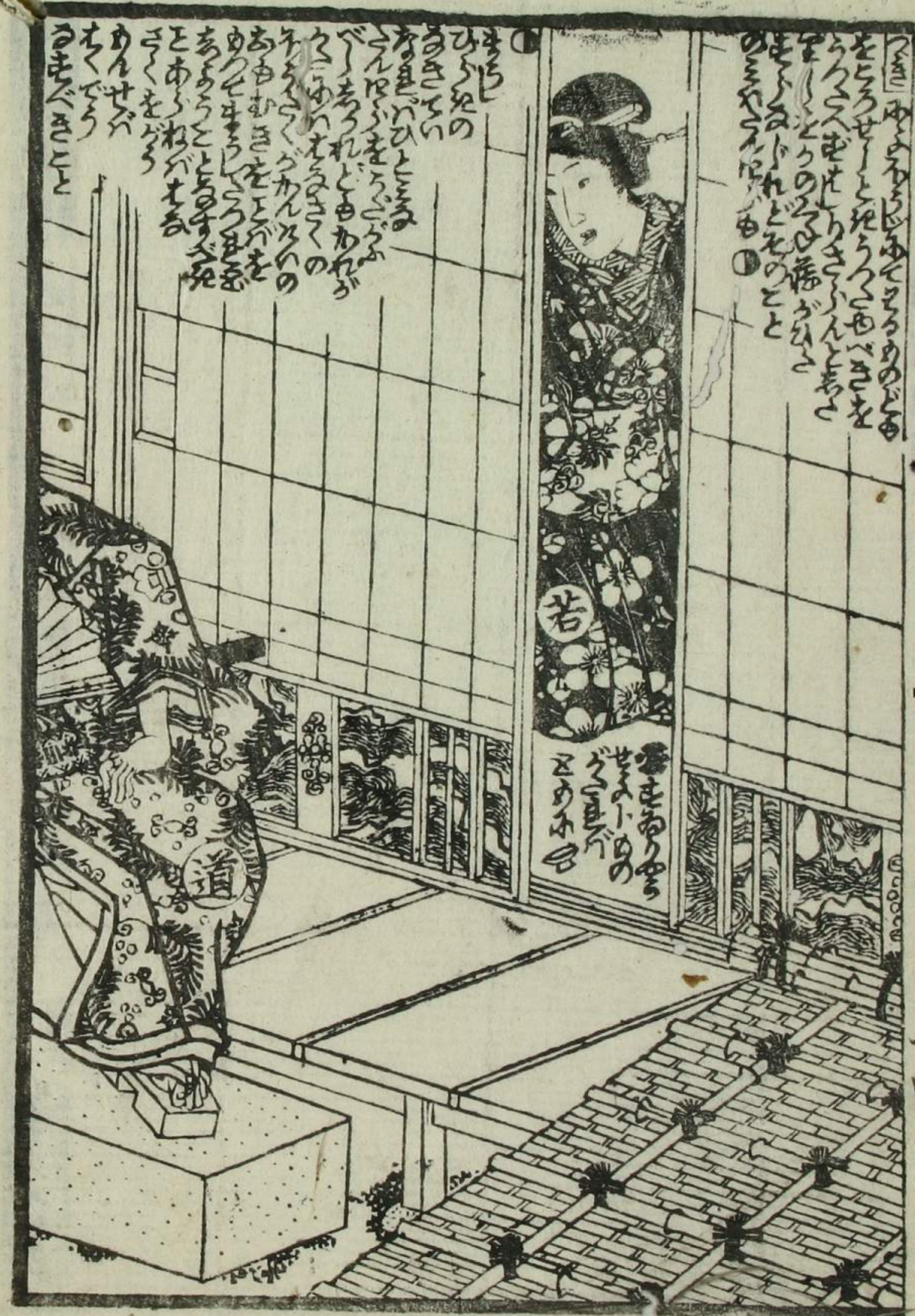
芝神明前
 若杖屋与市板

下の巻は... 家々の世々... 昔王は... 景好は... かの... 思の... せ... かの... 思の... せ... かの... 思の... せ...



あつらふゆめ
 んんあつらふゆめ
 あつらふゆめ
 んんあつらふゆめ
 あつらふゆめ
 んんあつらふゆめ
 あつらふゆめ
 んんあつらふゆめ









寺代十三



藤竹廿三

十五



此の如きものなり
 人の心を
 此の如きものなり
 人の心を
 此の如きものなり
 人の心を
 此の如きものなり
 人の心を
 此の如きものなり
 人の心を

此の如きものなり
 人の心を
 此の如きものなり
 人の心を
 此の如きものなり
 人の心を



此の如きものなり
 人の心を
 此の如きものなり
 人の心を
 此の如きものなり
 人の心を
 此の如きものなり
 人の心を
 此の如きものなり
 人の心を

此の如きものなり
 人の心を
 此の如きものなり
 人の心を
 此の如きものなり
 人の心を



此の僧は...
 山を歩くと...
 松の葉が...
 杖をたたく...
 音は...
 心...

僧の...
 背の...
 荷の...
 重さ...
 歩む...
 姿...

松の...
 葉の...
 影...
 法師...
 杖...

三分の...
 ま...
 せ...
 五...

此の僧は...
 山を歩くと...
 松の葉が...
 杖をたたく...
 音は...
 心...



法師...
 杖...
 音...

明作十三
かみひらき
か助滝垢離して丹四郎
救つんと初交次編小妻

かみひらき
かみひらき
かみひらき
かみひらき
かみひらき
かみひらき
かみひらき
かみひらき
かみひらき
かみひらき

朝牛肉丸 赤金三朱
鮮牛肉丸 赤金三朱
鮮牛肉丸 赤金三朱
鮮牛肉丸 赤金三朱
鮮牛肉丸 赤金三朱
鮮牛肉丸 赤金三朱
鮮牛肉丸 赤金三朱
鮮牛肉丸 赤金三朱
鮮牛肉丸 赤金三朱
鮮牛肉丸 赤金三朱

為永春水作歌川國貞画



備書
交來
まじり
まじり
まじり
まじり
まじり
まじり
まじり
まじり



北雪美談時代
鏡二十四編上冊
若林堂販



為永春水作
代交次編小妻
幸角の抄をひ



廿四編下

若林文庫

辛酉新刻

為永其水記

款門國貞畫



北雪
美談
時代鏡

豊國画

廿四編

時代鏡二拾
四編下之卷

梅一編

いそるらん福の
ゆきうらみ

山嵐

魚



為永春水の作

一春春國

あはれ

右羿不死の薬西王母不請よその

妻嫦娥竊てて食ひ月宮小入り化して蟾蜍と

又素娥と號せし成語考天文の部の注小見也

今這口画小吉千代が嫦娥小誘りの圖ハ復是嗣

輯の観深るが本編の文意とらさるる月と團魚

飛離るる画様小あられと折も仲秋望の夜小此一

帙紙編果たる因りあはれ引上る僅小卷首と塞とさる

干時萬延元庚申年柳月
稿成同二辛酉獻歳發兌

為永春水誌

寺代七四





月宮の嫦娥良夜不
 吉千代茲誘引圖



加
此の如く
...

寺ノ七四

...



...

...



井ノ上四郎



申す所なきは
 御座候まは
 申す所なきは
 御座候まは
 申す所なきは
 御座候まは
 申す所なきは
 御座候まは
 申す所なきは
 御座候まは

申す所なきは
 御座候まは
 申す所なきは
 御座候まは



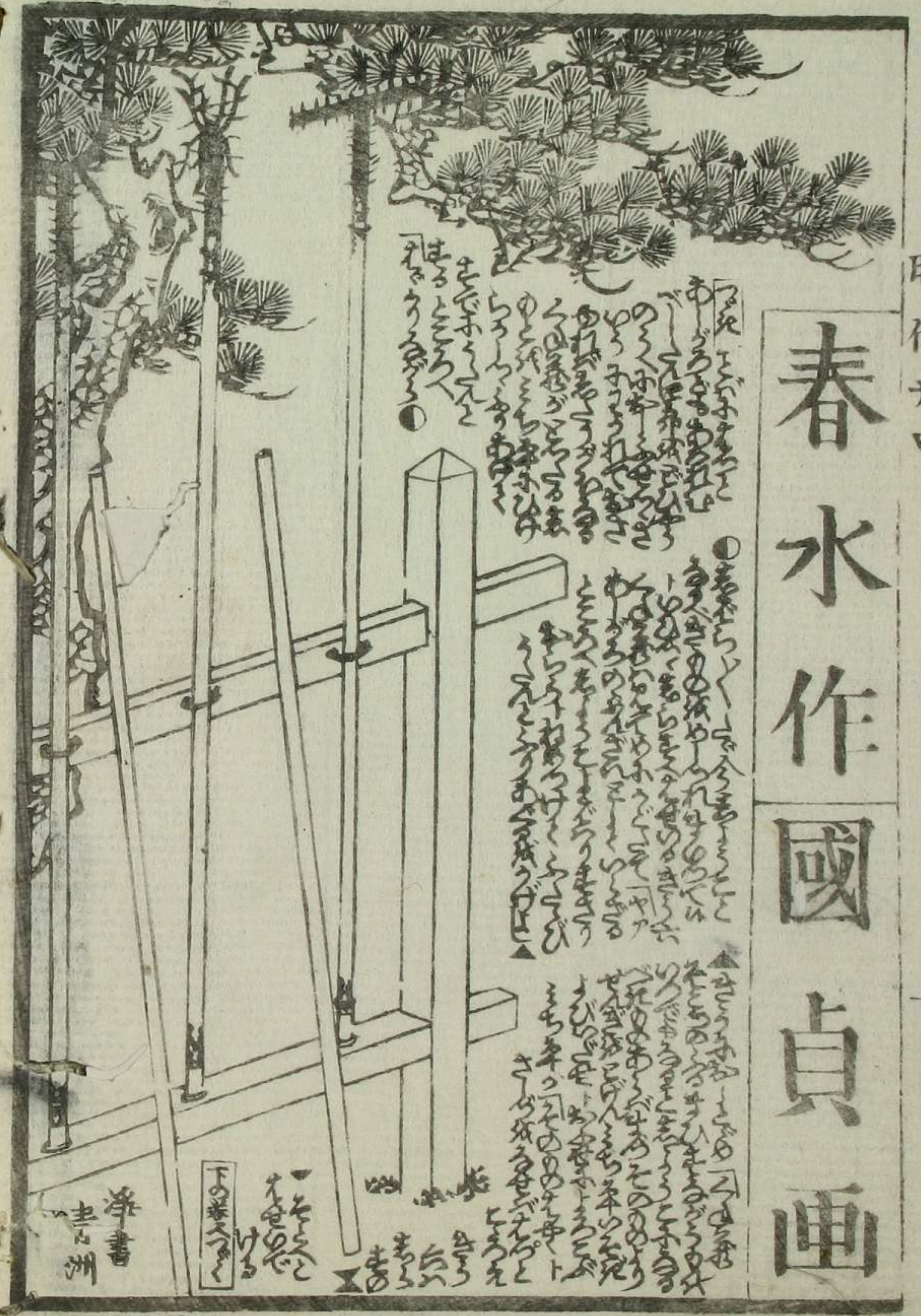
申す所なきは
 御座候まは
 申す所なきは
 御座候まは
 申す所なきは
 御座候まは
 申す所なきは
 御座候まは

申す所なきは
 御座候まは
 申す所なきは
 御座候まは
 申す所なきは
 御座候まは
 申す所なきは
 御座候まは



Vertical columns of Japanese text surrounding the illustration, likely providing commentary or a narrative related to the scene.

Small vertical text on the left margin.



春水作國貞画

Vertical columns of Japanese text to the left of the fence illustration.

Vertical columns of Japanese text to the right of the fence illustration.

Vertical columns of Japanese text at the bottom right of the illustration.

下の巻へつ

浄書 吉洲

Small vertical text on the right margin.

此の物語は、
 昔の事なれど、
 今も人の心に
 残るる事あり。



是れは、
 昔の事なれど、
 今も人の心に
 残るる事あり。

此の物語は、
 昔の事なれど、
 今も人の心に
 残るる事あり。



是れは、
 昔の事なれど、
 今も人の心に
 残るる事あり。

甲子
 十
 州
 四





幻 中 幻 理 外 理
 出 後 輯 餘 意

かくてはるかに
 うららかに
 名をも是周知
 こゝろを
 ことごとく
 ことごとく
 ことごとく

かくてはるかに
 うららかに
 名をも是周知
 こゝろを
 ことごとく
 ことごとく
 ことごとく



寺七十四

十五

かくてはるかに
 うららかに
 名をも是周知
 こゝろを
 ことごとく
 ことごとく
 ことごとく



時代九四

四



寺代十四



町个地口



寺代七田



日作

Handwritten text in vertical columns, likely a title or introductory text for the illustration.



Handwritten text in vertical columns at the bottom of the left page.

Handwritten text in vertical columns at the top of the right page.



Handwritten text in vertical columns at the bottom of the right page.

Vertical text on the right edge of the right page, possibly a page number or reference.



寺代七四



寺代七四

萬延二年春新刻目錄

北雪
美談

時代加賀實

廿一編
廿五編

為永春水作
謀蝶樓國貞画

雜談
雨夜曾庫

四編
五編

為永春水作
一陽齋豐國画
出板門人 國久画

庭訓武藏鏡

應賀作 六編捕

志願扇
之幻形

沖流法好... 志願扇... 之幻形... 國貞画

地本多... 若林堂

其... 若林堂... 版

Vertical text columns at the top of the illustration, likely a preface or commentary.

為永春水作歌川國貞画



淨書
其田
洲青

